

私立中学校における道徳教育の実践状況とその特徴

星 野 進（白鷗大学足利中学校）

1. 研究の目的

筆者は3年前、委託研究員として「私立中学校における教育相談活動への取り組み」に関する調査を行った。結果、私立中学校では教育相談活動への関心は高いが体制が整っていない学校も多く、実際の教育相談活動への取り組みには学校間による差が大きいことが分かった。

平成 25 年 9 月に「いじめ防止対策推進法」が施行され、学校におけるいじめ防止の基本的施策の中で「道徳教育の充実」は第 1 にあげられている。いじめ問題への対応から、道徳の教科化への動きが高まり、平成 26 年 10 月には、中央教育審議会から「道徳に係る教育課程の改善等について（答申）」（以下、「答申」）が出された。「答申」によると、道徳の時間を「特別の教科 道徳（仮称）」に格上げし、早ければ平成 30 年度から実施するとしている。今回の教科化の大きな目玉は、検定教科書の導入と、記述による評価の実施である。長きにわたり「道徳の形骸化」が叫ばれてきたが、今回の教科化により、今後は充実した道徳教育の展開が求められることになった。

私立中学校は、学校教育法で定められていわゆる一条校であり学習指導要領等に基づいた教育を展開しているが、一部では柔軟な対応が可能となっている。その 1 つに「宗教」があげられる。政教分離等の観点から、公立学校における宗教教育は禁止されているが、私立学校では可能となっている。さらに、宗教系の私立小中学校は教育課程の編成上、「道徳」に代えて「宗教」を導入することが認められている。（学校教育法施行規則第 50 条、79 条）

『平成 26 年度学校基本調査』によると、全国の私立中学校数は 777 校で、全国の中学校の約 7.4%となっている。このうち宗教系学校は 237 校で、全私立中学校の約 30.5%を占めており、宗教別の内訳は表 1 に示した。こうした宗教系の学校における「宗教」もしくは「道徳」に実施状況について明らかにした調査は発見できなかった。

また、文部科学省は平成 24 年にすべての公立小中学校を対象とした「道徳教育実施状況調査」を行っているが、私学を対象とした調査や研究は発見できなかった。

そこで、筆者は全国の私立中学校に「道徳」「宗教」の実施状況に関するアンケート調査を行った。本研究では、アンケートの分析から「道徳」と「宗教」のそれぞれの実施状況の比較と、公立と私立中学校における道徳教育の実施状況の差異を明らかにし、そこから見えてくる私学の課題を明らかにしていきたい。

表 1 宗教別中学校数

キリスト教	169	71.3%
仏教	52	21.9%
新宗教	13	5.5%
神道	3	1.3%
合計	237	100.0%

資料：（公財）国際宗教研究所
宗教系学校リク集

2. アンケートの内容（A 4 版 4 ページ 直接記入方式）

【Ⅰ. 学校の概要】学校の所在地・付属校の有無・生徒在籍数・宗教系など。

【Ⅱ. 道徳・宗教に関する学校の体制】主たる指導者・校内研修・実施形態・T T や G T の実施など。

【Ⅲ. 道徳教育について】 道徳の時間の教材・指導方法の研究・道徳教育実施上の課題など。

3. アンケートの実施概況

実施時期：平成 26 年 11 月上旬～11 月下旬 全国の私立中学校・中等教育学校（745 校）へ郵送
回答：745 校中 346 校から回収。（回収率 46.4%） ※ エクセルにて集計

4. 調査結果の概要

アンケートは、首都圏を中心に各都道府県の学校数にほぼ比例する形で回答が得られた。生徒の在籍数や学校の規模から見ても大きなバラつきは認められなかった。

(1) 「道徳」と「宗教」の実施状況の比較

回答が得られた 346 校中、宗教系の学校は 140 校(40.5%)であった。宗教別の内訳はキリスト教系－102 校(72.9%)・仏教系－33 校(23.6%)・その他－5 校(3.6%)であり、全国の宗教系中学校の割合とほぼ一致していた。

宗教系の学校では、87%が宗教を実施しているが、道徳を実施している学校も 11.6%見られた(表 2)。また、宗教と道徳を両方実施している学校も 5 校あった。

次に、「道徳」と「宗教」を実施している学校における展開の違いを見ていきたい。表 3 に「道徳・宗教の主たる実施者」を示した。中学・高校では「宗教科」の教員免許があり、原則として教授するには免許が必要である。そのため、専科の教員が実施している学校が多い。これに対し、原則として担任を中心に実施するものをされている「道徳」は、専科の教員による実施は少ない。中学校段階では専科の教員が道徳を実施するべきだという意見もあるが、現状では教科化を果たしたのちも現行の担任実施の原則は継続されることになっている。

表 4 は、「道徳」と「宗教」を実施している学校を別にしてアンケートを集計し、差異が大きい項目の割合を示している。(道徳と宗教を同時に実施している学校は、両方に組み入れている。)

その結果、授業公開・評価・ノートの使用について、大きな隔たりが見られた。宗教系の学校は、建学の精神に宗教が含まれる場合が多いので、授業公開の割合が多いと推測できる。宗教は教科であるために、評価やノートを使用している割合も高いと思われる。

前述のように、道徳の教科化の大きな目玉の一つに評価の導入がある。領域である「道徳」の実施校で評価を導入している学校は少ない。「答申」には、「道徳性の評価に当たっては、指導のねらいや内容に照らし、児童生徒の学習状況を把握するために、児童生徒の作文やノート、質問紙、発言や行動の観察、面接など、様々な方法で資料などを収集することになる」とあり、例示された「パフォーマンス評価」、「ポートフォリオ評価」、「児童生徒の自己評価」などから適切な方法を用いて評価を行

表 2 道徳・宗教の実施割合

	宗教系	非宗教系
道徳	11.6%	92.7%
宗教	87.0%	0.5%
その他	6.5%	8.8%

※道徳・宗教を両方実施している学校あり。

表 3 道徳・宗教の主たる実施者

	道徳	宗教
担任	85.6%	4.7%
専科	5.6%	89.8%
その他	16.7%	4.7%

※複数の教員で実施している学校もあるため合計が 100 になっていない。

表 4 道徳と宗教の比較

	道徳	宗教
保護者や外部の方へ授業公開をしている	28.8%	78.1%
評価している	13.7%	79.8%
ノートを使用している	25.6%	74.0%

い、指導の充実を図ることが望まれるとある。

表5に、「授業の終末や、授業の終了後に実施内容の振り返り等を実施していますか」に対する回答を示した。「宗教」「道徳」に大きな違いはないが、道徳に未実施が多い。(使用教材は、道徳でワークブックの割合が61.6%、宗教でノートが49.6%となっている。)

上杉(2014)は、評価の目的として、「選別・選抜」のための「価値づけ(evaluation)」と、「指導の改善」のための「診断(assessment)」をあげている。「宗教」「道徳」いずれにせよ、

評価は生徒・教員双方を向上させるはずである。そのため今後は、ノートの使用や振り返りの実施等がより一層必要となるであろう。

(2) 公立・私立中学校の道徳教育の実施状況の比較

表6に、前述の「道徳教育実施状況調査」(平成23年度の実施状況を平成24年5～6月に調査)と今回のアンケート調査の結果(平成25年の実施状況)の比較を示した。公立と私立の中学校における道徳教育の実施状況の違いを検討していきたい。(なお、私立中学校のデータは、宗教系の有無に関わらず、道徳を実施している学校の回答を集計している。)

公立中学校は、教育委員会等からの指導もあり、「全体計画の作成」・「年間指導計画の作成」・「道徳教育推進教師等の配置」は、ほぼ全ての学校で実施されている。私立は、「全体計画の作成」・「年間指導計画の作成」は、約6割の学校で行われているが、「道徳教育推進教師等の配置」は2割を下回っている。「校内研修の実施」でも双方の違いが際立っている。

表7は、「道徳の時間の指導にどのような教材を使用しましたか」に対する回答の多かった上位6位までを示している。上位6つの項目は同じであったが、私学の教材使用の割合は公立と比べ低く、順位には違いがみられた。道徳の授業には型があり、一般的には読み物資料を用いた授業が定番とされている。公立中学校は「民間会社の読み物資料」が2番目に多く8割以上の学校が用いているが、私立はその割合は約3割を下回っている。

現状では賛否両論があるが、道徳の時間にねらいとする価値を明確にした上で、構成的グループエンカウンター等を取り組む学校も増えてきている。「答申」には、「指導のねらいに即し、適切と考えられる場合には、『特別の教科 道徳』(仮称)において(中略)、問題解決的な学習や体験的な学習、役割演技やコミュニケーションに係る具体的な動作や所作の在り方等に関する学習などの指導を発達段階を踏まえつつ取り入れることも重要である」とある。さらに「その際には、単に活動を行って終わるのでなく、児童生徒が活動を通じて学んだことを振り返り、その意義などについて考える」ことも必要とされている。

『生徒指導提要』では、表8の1～9に掲載した手法を「教育相談の新たな展開」として紹介して

表5 振り返りの実施

	ほぼ毎回	時々	未実施
宗教	13.3%	66.4%	20.3%
道徳	15.2%	53.5%	31.3%

表6 道徳教育の実施状況

	公立	私立
道徳教育の全体計画を作成している	99.3%	58.4%
道徳の時間の年間指導計画を作成している	99.7%	62.3%
道徳教育推進教師等を配置している	99.9%	17.9%
道徳に関する校内研修を前年度実施した	77.4%	24.7%

表7 道徳の時間に使用した教材

	公立	私立
心のノート	84.9% ①	63.9% ①
民間の教材会社で開発刊行した読み物資料	81.3% ②	26.9% ⑥
自作(学校作成を含む)の読み物資料	56.3% ⑥	38.5% ③
新聞記事	70.1% ③	48.1% ②
書籍・雑誌(随筆、評論、小説、詩、伝記等)	67.1% ④	34.1% ④
インターネットにより得られた情報	58.7% ⑤	30.8% ⑤

※複数回答。割合の右の丸数字は、順位。

おり、授業の中で実施するなど工夫を求めている。さらに道徳の時間の従来型とは異なる展開として、「価値の明確化」や「モラルジレンマ」等も広く知られている。私立中学校では、6割以上の学校で必要に応じこれらの手法が用いられており、道徳の教科化によりさらに多くの学校で用いられることが予想される。

最後に道徳教育を実施する上での課題について示した(表9)。割合の多少の違いはみられるが、公立も私立も同じような課題を抱えていることが分かる。

5. まとめ

2015年2月4日文科省は、道徳科の学習指導要領改定案を公表した。従来の「読み物道徳」から「議論する(考える)道徳」への転換を図るといふ。今後は多様なものの見方や議論が求められるようになり、今まで以上に現場の力量が求められるようになると思われる。私学にどの程度の道徳の実施が求められるかは未だ不透明であるが、少なくとも道徳を実施している学校には、今まで以上の充実が求められるであろう。

表6に示したように、私学は道徳に関する研修を実施している学校は少ない。私学の特徴の一つに、公立と比べ教員の流動性の低さがあげられる。私学はガラパゴス化していると形容されることがあるが、これも見方を変えれば学校の独自性がある程度認められていることを表している。学校の財産である教員の質を高め、独自性を発信していくことも、今後私学に必要となるであろう。

また、教科化に伴う評価の導入を見据え、これからはノートやワークシートなどの導入や、振り返りの実施等が不可欠であろう。今後は、こうした活動を繰り返すことでみられる生徒の変化について理解・把握し、生徒にフィードバックして、評価につなげていくことが求められるだろう。

参考文献

上杉賢士(2014)「特別の教科『道徳』における評価の考え方と方法」『子どもの道徳』108号光文書院
 押谷由夫 柳沼良太(2014)『道徳の時代をつくる！－道徳教科化への始動－』教育出版

表8 新たな手法

1.グループエンカウンター	42.1%
2.ピアサポート活動	4.3%
3.ソーシャルスキルトレーニング	21.5%
4.アサーショントレーニング	11.5%
5.アングラマネージメント	2.9%
6.ストレスマネジメント教育	7.2%
7.ライフスキルトレーニング	12.0%
8.キャリアカウンセリング	20.1%
9.モラルスキルトレーニング	11.5%
10.価値の明確化	13.9%
11.モラルジレンマ	11.5%
12.その他	2.4%
13.どれも用いていない	38.8%

表9 道徳教育を実施する上での課題

	公立	私立
適切な教材の入手が難しい	37.3%	25.0%
効果的な指導方法が分からない	38.9%	33.2%
地域や保護者の協力が得られにくい	4.9%	0.5%
指導の効果の把握が困難である	42.7%	39.9%
十分な指導時間が確保できない	15.1%	25.5%
その他	4.5%	3.4%
特になし	15.2%	14.4%